

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年5月11日
【四半期会計期間】	第13期第3四半期（自平成24年1月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 津谷 祐司
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8160
【事務連絡者氏名】	取締役 柴原 新吾
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8160
【事務連絡者氏名】	取締役 柴原 新吾
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第12期 第3四半期 累計期間	第13期 第3四半期 累計期間	第12期
会計期間	自平成22年7月1日 至平成23年3月31日	自平成23年7月1日 至平成24年3月31日	自平成22年7月1日 至平成23年6月30日
売上高(千円)	4,632,321	5,872,190	6,346,359
経常利益(千円)	684,110	591,245	761,657
四半期(当期)純利益(千円)	400,033	346,978	444,043
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金(千円)	414,566	876,918	866,914
発行済株式総数(株)	4,409,793	4,969,749	4,910,291
純資産額(千円)	1,874,050	3,076,810	2,822,756
総資産額(千円)	2,863,973	4,193,812	3,897,316
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	91.08	70.25	100.05
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	86.92	67.73	95.26
1株当たり配当額(円)	15.00	-	38.00
自己資本比率(%)	65.4	73.4	72.4

回次	第12期 第3四半期 会計期間	第13期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成23年1月1日 至平成23年3月31日	自平成24年1月1日 至平成24年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	41.52	32.13

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため、記載しておりません。

4. 第12期の1株当たり配当額には、東京証券取引所マザーズ市場への上場に関する記念配当15円及び東京証券取引所市場第一部への市場変更に関する記念配当5円を含んでおります。なお、第12期の1株当たり配当額は、平成23年1月1日付の1株を3株とする株式分割前の数値で記載しており、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合、28円となります。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、主な変更は次の通りであります。

(モバイルコマース事業)

平成24年3月31日をもって、モバイルコマース事業を閉鎖いたしました。

中長期の全社成長を鑑み、当面モバイルコンテンツ事業に経営資源を集中させるためであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比較して296,495千円増加し、4,193,812千円となりました。その主な要因は、現金及び預金が46,121千円減少したものの、売掛金が331,618千円増加したことによるものです。

負債は前事業年度末と比較して42,442千円増加し、1,117,002千円となりました。その主な要因は、未払法人税等の減少121,943千円や1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の減少44,108千円があったものの、未払費用が193,876千円増加したことによるものです。

純資産は前事業年度末と比較して254,053千円増加し、3,076,810千円となりました。その主な要因は、四半期純利益の計上により利益剰余金の増加234,046千円があったことによるものです。

#### (2) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州債務危機や原油高の影響により企業収益は減少しましたが、エコカー補助金等の政策効果もあって個人消費は底堅く推移する等、景気は緩やかに持ち直してきました。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、端末契約において、フィーチャーフォンからスマートフォンへの移行が進み、スマートフォン契約比率は、平成24年3月末の22.5%から平成25年3月末には37.7%に増加すると予測されております(注1)。キャリア公式サイト市場は、端末の変化に伴い、フィーチャーフォン向け市場は縮小していくものの、スマートフォン向け市場の急速な立上りにより、全体としては緩やかに増加するものと見込んでおります。ソーシャルアプリ市場は、成長が続き、中でも国内ソーシャルゲームの市場規模は平成24年度に3,429億円(前年度比1.3倍)に拡大すると予測されております(注2)。

このような環境の下、当社は、中期的な経営戦略として、次の2点を掲げております。

「恋ゲーム」に経営資源を集中し、コンテンツの高付加価値化に努める。

「恋ゲーム」は、「恋人」シリーズと「恋も仕事も!」シリーズの総称です。

従来のキャリア公式サイト市場から、ソーシャルアプリ市場、スマートフォン向け市場及び海外市場へと、収益源の多様化を図る。

なお、顧客ターゲットについては、19才から44才の女性とし、特に30才前後の女性を中核層としております。

当第3四半期累計期間においては、売上は、主軸のモバイルコンテンツ事業の売上増により、増加いたしました。一方、費用は、概ね会社計画通り、ソーシャルアプリの販売増加による販売手数料の増加、テレビCMの積極出稿による広告宣伝費の増加がありました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は5,872,190千円(前年同期比26.8%増)、営業利益は587,938千円(同14.5%減)、経常利益は591,245千円(同13.6%減)、四半期純利益は346,978千円(同13.3%減)となりました。

(注)1. 出所：株式会社MM総研「スマートフォン市場規模の推移・予測(12年3月)」平成24年3月13日発表

2. 出所：株式会社矢野経済研究所「ソーシャルゲーム市場に関する調査結果 2011」平成24年1月17日発表  
金額はユーザー課金ベース(広告収入含まず)

セグメント別の概況は以下の通りであります。

(モバイルコンテンツ事業)

モバイルコンテンツ事業においては、ソーシャルアプリ、キャリア公式サイトについて、各々フィーチャーフォン向けとスマートフォン向けに、制作・運営と集客を行っております。

当第3四半期累計期間の施策は、以下の通りであります。

ソーシャルアプリは、8タイトル(内、スマートフォン向けは5タイトル)を立ち上げました。スマートフォン向けの売上は、端末の普及に伴い伸びており、2月投入の「社内恋愛 2人のヒミツ for GREE」は順調に立ち上がりました。また、「Love&Job! オトナの事情 for mobage」を2月に配信開始しました。

キャリア公式サイトは、35タイトル(内、スマートフォン向けは月額課金版26タイトル、落切課金版5タイトル)を立ち上げ、第3四半期において、新規タイトル「同窓会は恋の始まり」を2月に投入しました。また、スマートフォン向けへの移行は、概ね完了しました。集客は、テレビCM「ベツカレ」の新シリーズを2月に投稿しました。

海外市場向けスマートフォンアプリは、「Romance Sims」シリーズ2タイトルを立ち上げました。3月投入の第2弾「My Forged Wedding」は、第1弾を上回る、好調な立ち上がりでした。

当第3四半期会計期間末における、ソーシャルアプリ数は19タイトル(内、スマートフォン向けは6タイトル)、キャリア公式サイト数は112タイトル(内、スマートフォン向けは月額課金版27タイトル、落切課金版7タイトル)、海外市場向けスマートフォンアプリ数は北米市場向け2タイトルとなりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は5,711,307千円(前年同期比29.6%増)、セグメント利益は1,122,966千円(前年同期比4.0%減)となりました。

(モバイルコマース事業)

モバイルコマース事業においては、平成24年1月24日付「モバイルコマース事業の閉鎖に関するお知らせ」で公表しました通り、平成24年3月31日の事業閉鎖に向け、在庫商品の販売に注力し、予定通り閉鎖いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は154,906千円(前年同期比23.2%減)、セグメント損失は45,200千円(前年同期はセグメント損失22,443千円)となりました。

(その他)

その他の事業においては、パッケージ事業の収益が計上されており、主にモバイルコンテンツ事業のコンテンツに関連した、DVD・CD・書籍の販売を行っております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は5,976千円(前年同期比74.3%減)、セグメント損失は1,485千円(前年同期はセグメント利益6,996千円)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年5月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,969,749	4,972,947	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	4,969,749	4,972,947	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成24年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成24年1月1日～ 平成24年3月31日 (注)1	33,376	4,969,749	5,616	876,918	5,616	842,518

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 平成24年4月1日から平成24年4月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が3,198株増加、また、資本金が537千円及び資本準備金が537千円増加しております。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,934,300	49,343	権利内容に限定のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,873	-	-
発行済株式総数	4,936,373	-	-
総株主の議決権	-	49,343	-

(注)「単元未満株式」の株式数の欄には、当社所有の自己株式28株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20-3	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次の通りであります。

(役職の異動)

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	コンテンツグループ・デザイングループ管轄	取締役	コンテンツグループ・スマートフォン推進グループ・デザイングループ管轄	北島 健太郎	平成23年10月1日
取締役	コンテンツグループ・スマートフォン推進グループ・集客グループ・コマースグループ管轄	取締役	コンテンツグループ・集客グループ・コマースグループ管轄	横田 晃洋	平成23年10月1日
取締役	システム本部・IT推進室管轄	取締役	システム本部管轄	松永 浩	平成24年3月1日
取締役	公式コンテンツ本部・デザイングループ管轄	取締役	コンテンツグループ・デザイングループ管轄	北島 健太郎	平成24年3月1日
取締役	ソーシャルアプリコンテンツ本部・海外コンテンツグループ管轄	取締役	コンテンツグループ管轄	高澤 真	平成24年3月1日
取締役	PF拡大本部・集客本部・コマースグループ管轄(注)	取締役	コンテンツグループ・スマートフォン推進グループ・集客グループ・コマースグループ管轄	横田 晃洋	平成24年3月1日

(注) コマースグループは、平成24年3月31日のモバイルコマース事業の閉鎖に伴い、廃止いたしました。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成23年7月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成していません。



1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,010,498	1,964,376
売掛金	1,468,509	1,800,127
商品及び製品	27,130	291
前払費用	28,497	30,759
繰延税金資産	38,271	52,373
その他	402	238
貸倒引当金	10,547	25,560
流動資産合計	3,562,761	3,822,607
固定資産		
有形固定資産		
建物	36,995	36,995
減価償却累計額	27,762	31,631
建物(純額)	9,232	5,364
工具、器具及び備品	149,803	193,246
減価償却累計額	119,945	140,854
工具、器具及び備品(純額)	29,857	52,392
有形固定資産合計	39,090	57,756
無形固定資産		
ソフトウェア	95,456	114,965
無形固定資産合計	95,456	114,965
投資その他の資産		
繰延税金資産	24,197	26,237
敷金	175,810	172,245
投資その他の資産合計	200,008	198,483
固定資産合計	334,555	371,205
資産合計	3,897,316	4,193,812

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	95,763	87,287
1年内返済予定の長期借入金	38,106	-
未払金	14,141	5,655
未払費用	644,070	837,947
未払法人税等	220,937	98,993
賞与引当金	-	47,989
その他	55,539	39,128
流動負債合計	1,068,558	1,117,002
固定負債		
長期借入金	6,002	-
固定負債合計	6,002	-
負債合計	1,074,560	1,117,002
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	866,914	876,918
資本剰余金	832,514	842,518
利益剰余金	1,123,523	1,357,570
自己株式	196	196
株主資本合計	2,822,756	3,076,810
純資産合計	2,822,756	3,076,810
負債純資産合計	3,897,316	4,193,812

(2)【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
売上高	4,632,321	5,872,190
売上原価	1,017,204	1,267,667
売上総利益	3,615,116	4,604,523
販売費及び一般管理費	2,927,152	4,016,584
営業利益	687,964	587,938
営業外収益		
受取利息	259	380
為替差益	-	196
雑収入	48	2,782
営業外収益合計	308	3,359
営業外費用		
支払利息	1,162	53
寄付金	3,000	-
営業外費用合計	4,162	53
経常利益	684,110	591,245
特別利益		
貸倒引当金戻入額	24	-
特別利益合計	24	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5,955	-
固定資産除却損	455	5
特別損失合計	6,411	5
税引前四半期純利益	677,724	591,239
法人税、住民税及び事業税	309,237	260,404
法人税等調整額	31,547	16,142
法人税等合計	277,690	244,261
四半期純利益	400,033	346,978

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
減価償却費 51,336千円	減価償却費 66,708千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成22年7月1日至平成23年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年12月15日 取締役会	普通株式	22,027	15.0	平成22年12月31日	平成23年3月14日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月29日 定時株主総会	普通株式	112,931	23.0	平成23年6月30日	平成23年9月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	モバイル コンテンツ 事業	モバイル コマース 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,407,309	201,746	4,609,056	23,264	4,632,321	-	4,632,321
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	4,407,309	201,746	4,609,056	23,264	4,632,321	-	4,632,321
セグメント利益又は 損失( )	1,169,455	22,443	1,147,012	6,996	1,154,009	466,044	687,964

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パッケージ事業を含んでおります。パッケージ事業は、モバイルコンテンツ事業で制作したコンテンツと関連したDVD・CD・書籍等を製作・販売しております。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 466,044千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	モバイル コンテンツ 事業	モバイル コマース 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,711,307	154,906	5,866,214	5,976	5,872,190	-	5,872,190
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	5,711,307	154,906	5,866,214	5,976	5,872,190	-	5,872,190
セグメント利益又は 損失( )	1,122,966	45,200	1,077,766	1,485	1,076,281	488,342	587,938

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パッケージ事業を含んでおります。パッケージ事業は、モバイルコンテンツ事業で制作したコンテンツと関連したDVD・CD・書籍等を製作・販売しております。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 488,342千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	91円8銭	70円25銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	400,033	346,978
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	400,033	346,978
普通株式の期中平均株式数(株)	4,392,161	4,938,987
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	86円92銭	67円73銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	210,201	184,164
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年5月11日

株式会社ボルテージ  
取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田邊 晴康 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 岩尾 健太郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの平成23年7月1日から平成24年6月30日までの第13期事業年度の第3四半期会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成23年7月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。